

市史編さんだより 第10号

発行 令和3年3月31日

《村絵図から》志染にあった湯山街道のいちりづか一里塚



天保5年安福田村絵図に描かれた一里塚



天保6年安福田村絵図に描かれた一里塚



一里塚跡推定地（志染中学校南側）

志染町安福田区有文書に江戸時代の安福田村を描いた大きな村絵図が数点残されていました。いずれも色鮮やかな絵図で、知り得た事実もたいへん多かったのですが、なかでも湯山街道沿いに描かれた「一里塚」はたいへん興味深いものがあります。

一里塚とは、多くは江戸時代、全国の主要街道沿いに距離の目安とするために土などを盛って設置されたものです。1里＝36町＝約4キロメートルごとに置かれたことから一里塚と呼ばれました。基本的に道の両側に向かい合うように設置され、盛り土には高木こうぼくに成長し大きな木陰を形成するエノキやケヤキなどの樹木が植えられ、旅人の良い休憩ポイントになっていました。明治時代以降、道路の拡幅によって撤去されるなど、現存するものはごくわずかとなっています。

江戸幕府が作成した国絵図によれば、三木市域には13ヶ所の一里塚がありましたが、やはり現存しているものはなく、どの地点にあったかも厳密にはわかりませんが、安福田村絵図によってそのうちの一つである志染の一里塚の詳細がわかってきました。

志染の一里塚は、近世後期には道の南側に1ヶ所だ



天保5年安福田村絵図（安福田区有文書）

けとなっていました。場所は、志染中学校の南側バス停付近にあったと考えられます。安福田村は、志染川に築かれた安福田井堰の関係で湯山街道と志染川の間の非常に狭いエリアを村域に持っていましたが、村絵図もその部分がしっぽのように飛び出て描かれており、その途中に一里塚がありました。この一里塚には、柿の木が植えられていたようですが、ある絵図では落葉した姿が、また別の絵図には柿の実らしきものになっている様子が描かれています。（木村）

志染一里塚跡

【公共交通機関】神姫バス「志染中学校」下車

『市史の窓』 「北谷時報」 にみる戦前の北谷村の畜産業 (吉川町)

令和2年度いっぱいまでみなぎ台小学校と統合される三木市立上吉川小学校の所蔵資料調査をしたところ、『北谷時報』という新聞を発見しました。『北谷時報』は、昭和9年(1934)10月3日、北谷村文化教育会という団体によって発刊され、以後毎月1回のペースで刊行されました。廃刊年は不明ですが、上吉川小学校には昭和14年(1939)4月までのものが残されています。今回は、その中から1930年代の北谷村の畜産業の様子について紹介します。

北谷村では肉牛の飼育に力が入っていました。

昭和10年(1935)11月21日、北谷村の農会と有畜実業実行組合の主催で肥牛品評会が開催されています。記事には「等級を競ふものでなく鑑識眼養成を主たる目的にした」ものとあるように、品評会は牛の目利きの能力を向上させるために行われました。1930年代において、和歌山県は肉牛育成の本場として知られており、北谷村では毎年、和歌山県へ牛を購入するために出向いています。観察眼は良質な牛を購入するために必要だったことがわかります。

12月5日、三木町家畜市場で美囊郡畜産組合主催の肉牛品評会が行われ、北谷村からは7頭出品したところ、3頭が入賞をしました。昭和11年(1936)2月25日、眞造利三郎・香下利一・堀尾延一が飼育牛4頭を大阪家畜市場へ共同出荷したところ、「全く驚異的な高価格に取引」され、4名は「呆然たるものがあった」とのことでした。このように、北谷村の肉牛は、ブランド牛として高い評価を得ていたことが窺えます。

『北谷時報』からは、日中戦争が北谷村の畜産業に影響を与えたことも分かります。北谷村では養鶏も行われており、トウモロコシが養鶏飼料として最も多く使用されて、その大部分は海外より供給されていました。しかし、戦争によって海外との関係が悪化し、輸入は困難になったため、農林省はトウモロコシの増産計画を立てました。そして、北谷村では5ヶ年間で200町歩を増産することとし、畑枝地区と新田地区でトウモロコシを栽培することになりました(昭和13年6月1日付)。

このように、『北谷時報』からは、1930年代の北谷村の畜産業の様子や戦争の開始に伴う地域内の変化について窺うことができます。(笠松)



『北谷時報』(三木市立上吉川小学校所蔵)



畑枝地区の開墾の様子(『北谷新報』昭和11年2月1日付)

市史編さんボランティア、参加・見学お待ちしております！ (4)

私たちは、市史編さんボランティア・メンバーとともに、市内にある文献資料を記録に残す取り組みを行っています。対象として扱っている資料は、地域に関する様々な事柄が記録された古い文献資料（古文書、書籍、絵図など）です。現在の活動人数は約20名で、水・木曜日の2グループに分かれて作業を行っています。このコーナーでは、ボランティア作業について紹介します。

今回は、新聞検索について紹介いたします。この作業では、三木市に関する新聞記事を集めます。これらは『新三木市史』の執筆材料や参考資料となります。

新聞検索には、時代別に二通りの作業があります。一つ目は、現在発刊されている新聞を対象にした検索作業です。各新聞（神戸新聞、日本経済新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞）をチェッ



クし、三木市に関する記事があれば、ページを切り取って保管します。

二つ目は、明治時代から昭和のはじめにかけて、発行されていた日刊新聞「神戸又新日報」を対象にした検索作業です。この新聞は、明治17年（1884）の創刊から昭和14年（1939）に廃刊するまで、神戸とその周辺地域で起きた出来事を報じてきました。この新聞の原物資料はたいへん貴重なので、あらかじめ紙面を撮影した画像をパソコンの画面上でチェックします。そして、昔の三木市（美嚢郡）の記事があれば、表に入力します。

（小澤）

開催日時：毎週水・木曜（どちらか1日の参加でもOK）
13:00～15:00（※新型コロナウイルス感染予防のため活動時間を短縮中）／場所：みき歴史資料館2階市史編さん室
ボランティアの活動内容：①デジタルカメラでの古文書の写真撮影、②江戸時代以降の崩した文字（崩し字）の解説、③資料の修復（しわのぼし・糊づけ等）、④新聞検索（各社新聞から三木に関する記事を選別する）。

市史の調査から… (5)

市史編さん室が調査した市域の史料群の一部を紹介します。

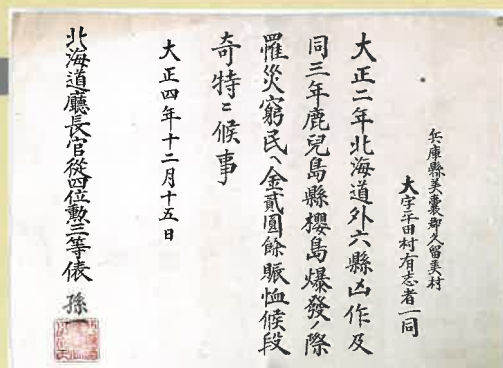
三木（久留美）平田・永尾家文書

地名：三木市平田（旧美嚢郡平田村／久留美村平田）

点数：461件 870点（目録件数）

年代：延宝7年（1679）～昭和26年（1951）

内容等：近世文書は少ないですが、三木町の地方町だった平田町（平田村のうち三木町人が出作していた土地が分離独立して成立）の延宝検地帳の古い写しが含まれているほか、伊勢講じかたまちに関するものがみられます。また近代文書では、村会や農会に関する史料があり、明治期から昭和期にかけての村の運営の様子を知る手がかりとなります。特に戦時期の葉書や手紙が多く含まれ、戦時下の生活や、家族との連絡のありようが具体的にうかがえます。全体として、村の運営や住民の生活を明らかにする史料が幅広く残されており、旧久留美村の近現代史を知るための基礎的な史料群といえることができます。



吉川部会主催女性座談会の開催

令和2年11月19日、吉川健康福祉センターにて吉川部会主催により、旧村（北谷村・中吉川村・奥吉川村）時代から吉川町時代にかけての思い出について女性の視線で語っていただくことを目指した座談会を開催しました。今回は、旧北谷村域から4名、旧中吉川村域から5名、旧奥吉川村域から4名の計13



名の方々に
お集まりい
ただきました。
まず、全体
でのあいさつ
と顔合わせ
を行ったあと、

別室で旧村ごとの班にわかれての座談会へと移りました。戦時中の生活のこと、学生時代のこと、災害のこと、かつての冠婚葬祭の様子、食事のこと、時代の変化についてなどさまざまな話題について貴重なお話を語り合っていました。

地域編『青山部会』の発足

令和3年3月3日、青山公民館にて、新たに発足した地域編「青山部会」の第1回部会が開催されました。最初に部会長の選出が行われ、西田博之さんが部会長に就任されました。その後さっそく活発な議論がなされ、部会員の役割やスケジュール、地区調べアンケートの内容などが確認されました。「青山部会」の皆様には、新三木市史地域編『青山の歴史』の刊行（令

和4年度末刊行予定）をめざし、市史編さん室をまじえた協議や史料収集、執筆などに取り組

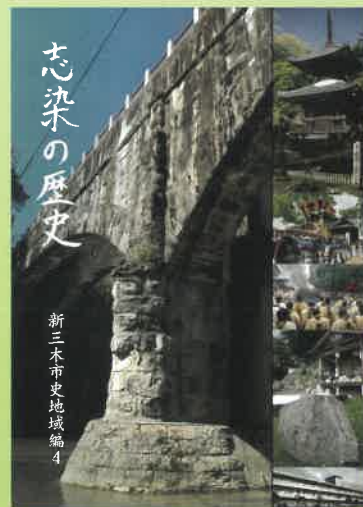


んでいただきます。住民の皆様におかれましても「青山部会」の活動へのご理解と積極的なご協力をお願いいたします。

新三木市史地域編『志染の歴史』の発刊

令和3年3月31日付で、新三木市史の2冊目となる地域編『志染の歴史』を発刊いたしました。地域編は、『住民参加の自治体史編さん』というコンセプトを実現するため、本の制作全般にわたり、地域住民

の方々にご参加いただいております。『志染の歴史』も多くの地域住民の方々のご協力のもと完成いたしました。発刊にあたり、改めてお礼申し上げます。『志染の歴史』は、みき歴史資料館や三木市史編さん室（資料館2F）などで購入（頒価3000円）できます。詳しくは市史編さん室まで。



三木の古い資料や写真の情報をお寄せください！

- ◆ くずした文字で書かれた帳面や一枚ものの文書などの古文書
- ◆ 和紙に書かれた冊子などの古い本
- ◆ 明治・大正・昭和の古いノートや記録（日記・手紙など）
- ◆ 三木市域の古い写真、絵画、映像など
- ◆ 自治会などの団体、地域でのグループ活動などの記録や資料
- ◆ 古いふすまや屏風（古文書が、下張りに使われていることがよくあります。）

皆さんのお近くにある古い記録類は、地域の歴史を物語る大切な歴史遺産です。上記のような資料の情報をお持ちの方は、ぜひ市史編さん室までご一報ください！

市史編さんだより 第10号（令和3年3月31日発行）

編集発行：三木市総務部 市史編さん室

連絡先：〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4-5 みき歴史資料館2階 電話 0794-83-1120 / FAX 0794-83-1190

ホームページURL：https://www.city.miki.lg.jp/soshiki/9/